



## 卒業式に向けての準備が始まっています

卒業式まで、6年生が登校する日は18日間となりました。学校では、卒業式に向けての準備が始まっています。6年生や、在校生代表の5年生の取組を紹介します。

### ① 6年生の取組

2月の始め頃に6年フロアのホワイトボードに、思いを届けたい相手とその気持ちがかかれていました。家族に「成長したよ！身の回りのサポートをありがとう」、教職員に「支えてくださり、教えてくださり、ありがとう」、下級生に「福野小学校を任せたぞ」、地域の方（クラブ指導、スクールバス等）、友達……。そして、一番上には、自分に「がんばったね！」と。こう思えることが本当に大事です。

実際の取組としては、先週までに、日を決めて、各学年との交流集会がありました。6年生が、各学年に「最後の思い出に何をしたいか」のアンケートを採り、内容を決め、子供たちの手で企画運営したものでした。5年生・1年生とは「ドッジボール」、4年生とは「けいどろ・大縄対決」、3年生・2年生とは「おにごっこ」だったようです。2月5日（月）には、5年生とのドッジボール対決がありました。教務主任と一緒に観ている、「5年生に勝たせてあげるのですかね」「手加減しないでしょ」という会話をしましたが、予想通り、6年生は真剣！でした。また、学習参観日に保護者に向けて「6年間ありがとう集会」がありました。6年間で振り返ったよい集会でした。最後に歌った「どんなときも」は本当にきれいな歌声でした。「卒業式には、これ以上の歌声を聴かせます」と言っていたので期待したいと思います。



2月27日（火）には、6年生と5・4年生によるバトンタッチ集会が予定されています。6年生の思いを、5・4年生に伝えてほしいと思います。6年生の皆さん、もう少しとなった小学校生活を全力で過ごしてください。

### ② 5年生の取組

里いもまつりで、自分たちのやりたいことを自分たちの力で企画運営する力をもっていることを証明した5年生も、在校生の代表として卒業式に向けての準備を進めています。5年フロアの掲示には、「届けよう思い～6年生に向けてジャンプアップ～」とテーマを掲げ、「①6年生に感謝の気持ちを伝える集会を企画運営するグループ」「②6年生の思い出に残るような会食を企画するグループ」「③6年生がよい気持ちで卒業できるように工夫して活動するグループ」「④6年生が気持ちよく卒業できるように掲示等を作るグループ」に分かれて活動しているようです。

3月4日（月）には、お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えるために、自分たちが企画し下学年を引っ張って行う大イベント『6年生ありがとう集会』があります。毎年、この時期に5年生が大きく成長し、最高学年になる心の準備をしていきま

す。1～4年生も出し物の練習をしたり物作りをしたりするなど、準備を進めています。どんな集会になるのか、今から楽しみです。

### ○卒業式について

今年の卒業式は、4年ぶりに全校児童（去年は3年生以上）を体育館に入れます。招待する地域の方の数も増やして開催しようと考えています。コロナ禍では、密を避けるため、下学年はオンラインでの参観で残念な面もありました。しかし、プラスに考えれば、下学年は練習時間がなく、その分、通常の授業をしっかりできました。通常の授業も大切なことです。この経験を生かし、今年の卒業式は、全校児童が参加はするものの、『別れの言葉』の下学年の担当個所を減らすことで、全体練習の時間をコロナ前よりも減らします。厳粛な儀式に臨む態度を養うことも大事な勉強ですが、該当学年の学習内容のまとめをすることを優先したいと思います。

その他、卒業式に来ていただく6年生児童の保護者の皆様には、次のことをお願いします。

- ・保護者の人数制限は設けませんが、体育館フロアの座席には各家庭1名とし、他の方は、2階観覧席をご覧ください。
- ・卒業式後に、担任と子供が教室で最後の学級活動を行います。

コロナ禍では体育館で待機していただきましたが、教室で参観されても構いません。



## プログラミング学習

引き続き5・6年生の話題となり申し訳ありませんが、今年も富山国際大学の松山教授と教員を目指す10名ほどの学生さんに来ていただき、高学年がプログラミングの授業を受けました。去年は、5年生も6年生も各クラス1時間ずつ、ゴルフボール型の機材を障害物に当たらないようにゴールまで移動させるプログラミングを行いました。今年は、5年生は同じ授業を、6年生はドローンを障害物を避けて飛ばし目的の場所に着陸させる授業をしてもらいました。去年の授業が終わったときに、5年生（現6年生）から「来年は2時間にしてください」と直訴されたので、特別に各クラス2時間ずつの授業をお願いしました。ゴルフボールに比べてドローンは3次元なので、縦横だけでなく高さも考えてプログラミングしなければいけない分、難易度は高いようでした。試行錯誤の上、目的の場所に到達できたときには、子供たちは歓声を上げていました。プログラミング学習を通して「失敗しても挑戦し続けること、これは日常生活でも同じ」ということが伝わってくればうれしいです。プログラミング学習についての私の思いは、「R4 校長だより② (R5. 2. 28) [tayori22.pdf \(nanto.ed.jp\)](#)」に書いたので、よかったらご覧ください。



《5年生の授業》



《6年生の授業》

(校長 曲師政隆)